

概要

- 宮崎県西臼杵地域は、釜炒り茶の産地であり、烏龍茶の生産にも取り組んでいたが、近年、他産地でも烏龍茶生産が行われるようになったため、他産地との差別化が課題であった。
- このため、普及組織は県総合農業試験場が開発した機能性成分γ-アミノ酪酸（GABA）を高含有する烏龍茶（以下、GABA烏龍茶）に着目し、生産者の収益向上と産地化を図る目的で烏龍茶の生産者組織である西臼杵地区烏龍茶研究会に対して関係機関と連携して支援を行った。
- その結果、地域に適したGABA烏龍茶製造法のマニュアル化、実証農家（モデル農家）を起点とした取組拡大、GABA烏龍茶の商品化へと繋っており、地域全体に波及している。

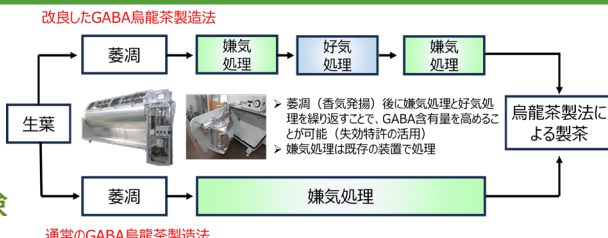
具体的な成果

1 西臼杵版GABA烏龍茶製茶方法の確立

- 気候や肥培管理が異なるため地域に適した製造法の検討
- 試行と実証により地域に適した安定的な製造方法へ改良

【西臼杵版GABA烏龍茶製造法のマニュアル化】

試験場が開発した製造法をベースに地域版の製造法を検討し、GABA含有量を安定的に確保する製法へ改良



2 地域オリジナル商品の開発

- 消費者のグループインタビューによる商品コンセプトの開発支援
- GABA烏龍茶の商品化



グループインタビュー



【開発した商品コンセプト】
烏龍茶産地においてオリジナル製法で作られたGABA烏龍茶は、美味しく美容と健康をサポート

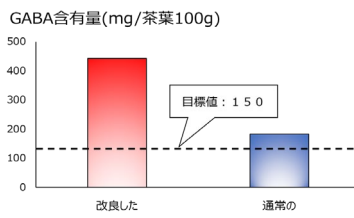


図2 製造法改良によるGABA含有量

3 GABA烏龍茶生産取組の拡大

- モデル農家を起点とした波及
- GABA烏龍茶生産取組者数
- モデル農家を起点に烏龍茶研究会全体に波及。
- 取組者数 R4：1戸→R5：4戸
- GABA烏龍茶商品化数：2製品（R5）



モデル農家育成に向けた製造支援

普及指導員の活動

令和3年度

- GABA烏龍茶の導入に向けた生産者への動機づけ支援
GABA烏龍茶を効果的にアピールするためには、烏龍茶研究会全体で取り組み、情報発信することが重要と考え、総合農業試験場茶業支場と連携してGABA烏龍茶の研修会を実施。

令和4年度

- 地域に適したGABA烏龍茶の製造法構築に向けた技術支援
管内で生産される生葉は窒素含有量が低く、目標のGABA含有量に達しないことが懸念。GABA含有量を安定的に確保するため、現地実証を行い、実証農家に対する技術支援と地域に適したGABA烏龍茶製造法へ改良。

令和5年度

- 商品コンセプト開発等による販売促進支援
GABA烏龍茶は、通常の烏龍茶と比べてやや嗜好性が落ちることから、効果的な販売を目的として、商品コンセプトの開発を支援。一般消費者を対象としたグループインタビューを行い、その結果を研究会で協議して、商品コンセプトを作成。

普及指導員だからできたこと

- ・ GABA烏龍茶を検討する生産者の不安を普及指導員が丁寧に技術支援し、地域に適した製造法に改良したことで技術導入に繋がった。
- ・ 商品開発に向けコンセプト開発支援等、普及指導員がコーディネート力を発揮しながら進めたことで新商品の開発に繋がった。

宮崎県

健康志向に対応した高付加価値化技術の導入による茶産地振興

活動期間：令和3年～令和5年

1. 取組の背景

西臼杵は全国有数の釜炒り茶産地であり、烏龍茶の製法が釜炒り茶と似ていることを活かして、平成21年から西臼杵地区烏龍茶研究会（8戸、約48ha）を中心に烏龍茶生産に取り組んでいる。しかしながら、近年、他産地でも烏龍茶生産が行われるようになったため、他産地との差別化が課題であった。

そこで、普及センターでは、総合農業試験場茶業支場が開発した機能性成分γ-アミノ酪酸（GABA）を高含有する烏龍茶（以下、「GABA 烏龍茶」）に着目し、生産者の収益向上と産地化を図る目的で支援を行った。

2. 活動内容（詳細）

（1）GABA 烏龍茶の導入に向けた生産者への動機付け支援（令和3年度）

GABA 烏龍茶を効果的にアピールするためには、烏龍茶研究会全体で取り組み、情報発信することが重要と考え、茶業支場と連携して GABA 烏龍茶の研修会を実施。研修会において、サンプル試飲や新技術導入により期待される効果等を協議することで、取組に対する気運が高まった。

（2）地域に適した GABA 烏龍茶の製造法構築に向けた技術支援（令和4年度）

GABA 烏龍茶は、生葉中の窒素含有量が多いほど GABA が蓄積しやすい特性があるが、管内で生産される生葉は窒素含有量が低く、目標の GABA 含有量に達しないことが懸念された。そこで、製造法の改良により、GABA 含有量を安定的に確保するため、現地実証を行い、実証農家に対する技術支援と地域に適した GABA 烏龍茶製造法の検討を行った。



製造実証支援

（3）商品コンセプト開発等による販売促進支援（令和4年度～令和5年度）

GABA 烏龍茶の機能性や香味特性を活用かつ効果的な販売を目的に商品コンセプトの開発支援を行った。商品コンセプトは、一般消費者を対象としたグループインタビューの手法を用いて検討し、研究会内でも協議して開発した。

また、管内の関係機関で組織する技術員会において、販売や広報対策について協議し、烏龍茶研究会のイベント開催等を支援した。



グループインタビュー

3. 具体的な成果（詳細）

（1）西臼杵版 GABA 烏龍茶製造マニュアルの作成

現地実証では、茶業支場が開発した製造法に加えて、改良した製造法についても検討した。その結果、GABA 含有量を安定的に確保する製造法の改良に至った。実証後、西臼杵版 GABA 烏龍茶製造マニュアルとして作成したことで、その後の普及に繋がった。

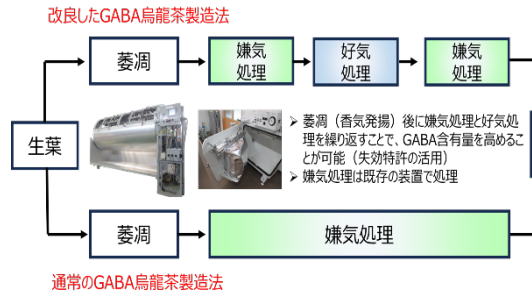


図1 西臼杵版 GABA 烏龍茶製造法

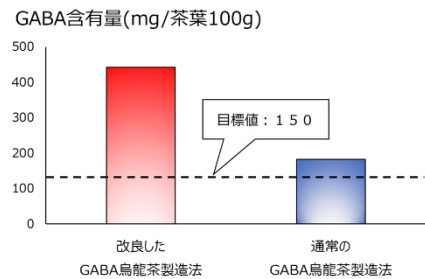


図2 製造法改良による GABA 含有量

（2）実証農家（モデル農家）を起点とした烏龍茶研究会全体への波及

実証後、烏龍茶研究会全体に波及させるため、実証農家をモデル農家と位置づけ、他の会員への取組拡大を図った。研修会において実証状況や技術上の難しさ等を実証農家から直接説明する場を設けることで、他の生産者も取組への抵抗感や不安感が少なくなり、全体の取組促進に繋がった。

（技術導入農家数 R4:1 戸→R5:4 戸）。



品質の検討会

（3）所得向上が期待出来る GABA 烏龍茶の商品化

グループインタビューにより消費者の求めるキーワードを抽出し、烏龍茶研究会で目指す商品コンセプトを検討、支援した。その結果、健康志向のニーズに対応するため、認知度が高まっている「GABA」と産地の強みである「品質」の双方をアピールし、他産地との差別化を図ることとなった。各生産者とも、通常の烏龍茶よりも高い価格設定をして販売に取り組んでおり、付加価値の高い商品として生産者も期待している。



コンセプトを基に作成したパッケージ

4. 農家等からの評価・コメント

（西臼杵地区烏龍茶研究会 五ヶ瀬町 宮崎亮氏）

新たな技術であり、健康志向の消費者の需要創出に期待している。烏龍茶産地として差別化できる技術であり、産地全体で発信していきたい。

5. 普及指導員のコメント

（宮崎県西臼杵支庁・主幹・高嶋和彦）

全国的な茶の消費低迷で茶業経営は厳しい状況にはあるが、消費者ニーズ

に対応出来る GABA 烏龍茶の技術を更に確立し、茶生産者の所得向上に貢献していきたいと考えている。

6. 現状・今後の展開等

GABA 烏龍茶の産地化に向けて、生産量の確保と品質の高位平準化に向けた生産技術支援を行うとともに、烏龍茶研究会、関係機関とも連携して販路開拓や効果的な産地情報発信を実施する予定。